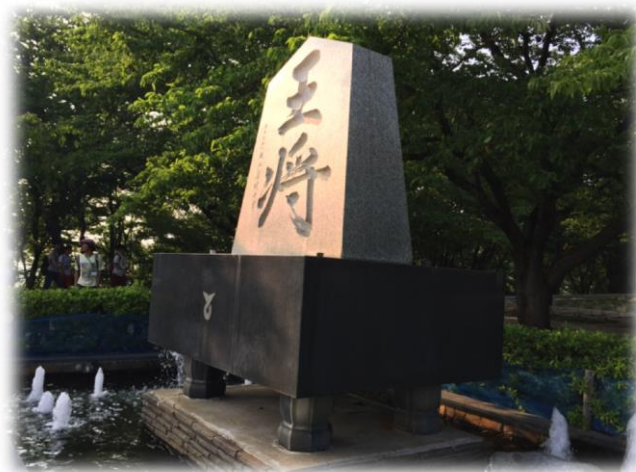


# 移住体験 プログラム In 天童



天童C班□ももこま〜ず

□□□□□理工学部建築学科 4年□渡辺梨紗子

□政治経済学部地域行政学科 1年□日向幹人

□国際日本学部国際日本学科 1年□横井綾夏

## 目次

- 1、はじめに
- 2、天童市の現状
- 3、課題解決に対する提案について
  - (1) 職の確保
  - (2) 居住地の確保
  - (3) 地域コミュニティへの参加
- 4、おわりに

## 1、はじめに

私達は、「創立者出身地への学生派遣プログラム2015」に参加し、宮城浩蔵先生の出身地である山形県天童市での課題解決に助力するべく、チームで討論を重ね、8月4日～7日に現地調査を行った。

今回の課題は、「人口減少の克服について（移住、定住者を拡大するには、どのような取り組みが必要か、また、成婚率をアップさせるためには、どのような取り組みが必要か。）」というもの。私達は、現地の方々（武田たかよさん、天童市建設課瀧口さん、河原さん、多田さん、中島さん）へのインタビューなどを通して、まずは移住者を増やし、その人達が定住できるような仕組み作りを行うことで、課題解決につながるのではないかと考えた。その結果、職の確保・居住地の確保・地域コミュニティへの参加、この3つの柱が仕組み作りの核として必要であるという結論に至った。

そのために、まずは移住を考える人がより現実的なイメージを持てるよう、かつ天童市の印象をさらに良いものにしてもらうべく、「移住体験プログラム」を提案することにした。それぞれのライフスタイルに合わせ、決められた期間の中で、雇用体験（インターン）、居住体験、地域コミュニティに実際に入ることを経験できるようになっている。これは、移住することが決まってからも特別な希望が無い限り同様の活動を継続して頂くため、とてもリアルな体験プログラムである。3本柱に関する詳細は後述するものとする。

## 2、天童市の現状

今回の天童市からの課題は「人口減少の克服について（移住・定住者を拡大する、および成婚率をアップさせるためには、どのような取り組みが必要か。）」である。天童市の人口は平成 27 年 9 月末日現在 62,149 人（天童市のホームページより参照）、山形県の中では 2015 年 4 月現在山形市、鶴岡市、酒田市、米沢市に次ぎ 5 位である（【全国の市区町村】人口・面積・人口密度ランキングより参照）。また、人口推移は年々増加傾向にあるが（下図参照）、平成 17 年から平成 22 年にかけては少しだけ下がっている。

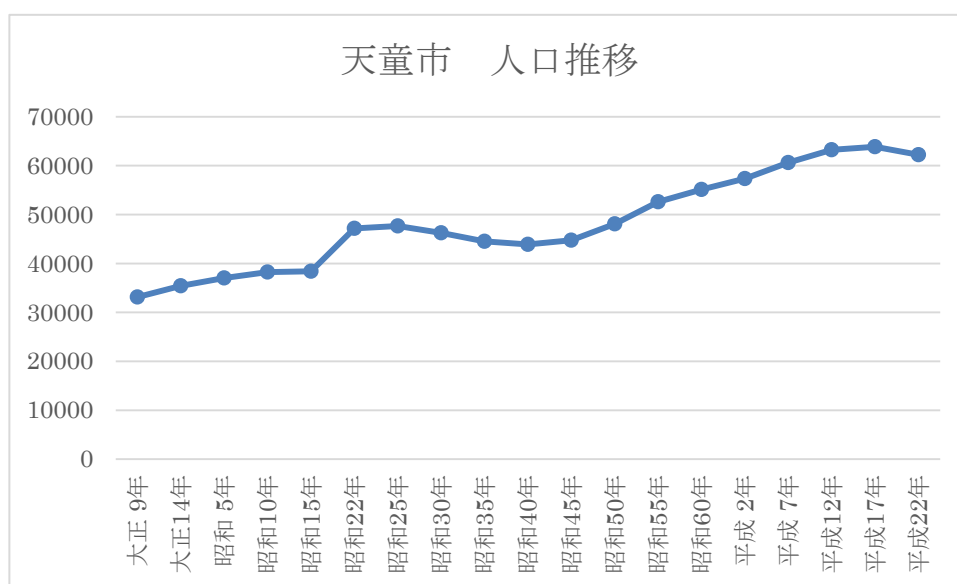


図 2-1 天童市 人口推移（天童市公式ホームページ 人口と世帯数の推移 参照）

天童市は消滅可能性都市に入っている。消滅可能性都市とは、日本創生会議により公表されたもので、2010 年から 2040 年までの間に若年女性（20 歳～39 歳）の減少率が 50% を超える市町村は、将来「消滅可能性都市」と想定されているものだ。（天童市公式ホームページ 広聴参照）天童の方々にお話を伺ったところ、ほとんどの人が「実感が湧かない」と感じていることが分かった。この現状を克服するためには、天童市の方々に問題意識を持っていただいた上で移住者を迎えることが必要である。

<http://www.city.tendo.yamagata.jp/municipal/toukei/tendosinojinkou.html> 現在の人口 2015 年 10 月 25 日閲覧

[http://uub.jp/rnk/ctv\\_j.html](http://uub.jp/rnk/ctv_j.html) 2015 年 10 月 25 日閲覧

<http://www.city.tendo.yamagata.jp/municipal/toukei/kokuseichousa.html> 人口と世帯数の推移 2015 年 10 月 25 日参照

<https://www.city.tendo.yamagata.jp/proposal/koucyou/hosinuno426.html> 2015 年 10 月 25 日参照

### 3、課題解決に対する提案について

#### (1) 職の確保

移住定住において、生活をしていくために働く環境はなくてはならないものであり、最も重要なもののひとつであるといえる。働く環境の確保は移住定住の促進をはかる天童市にとって大きな課題であり、パナソニックや飲食店など働く場所は点在しているものの、都会などと比較するとその選択肢は少ないように思える。他にも天童市ならではの職種としては将棋駒の生産などがあるが、その職人技術の習得には多くの年月を要し、生活するための仕事として移住者が就くには難しい点がある。また天童市は日本でも有数の果実生産地で、さくらんぼ・りんご・ラフランス・ぶどうなど年間を通して様々な果実を生産している。この移住体験プログラムにおいては天童市ならではの職業に重点を置くということで、我々は、果実における農業を天童市ならではの就職の場として選択することとした。天童市の農業に関しては米の生産も一般的であるが、都会などから農業に携わったことのない人がいきなり始めるには難しい点があるため、米に比べる新規農業就業者にも比較的取り組みやすいという果実を選択した。

本報告書では、現地の農家の方にお話しを伺った現地調査と、調査を経た上で考えたことについて、別々に分けて報告させて頂く。

今回の天童市現地調査では実際に農家の方を訪問し、インタビューという形で調査に協力して頂いた。その1人の河原伸丞さんは、東京近辺から天童市に移住された方で、新規の就業にあたっては様々な苦労があったという。ある地域では周辺近所の方とのコミュニケーションが上手くとれなかったことがあったと聞き、地域の新規就業者の温かい受け入れが必要であるというように思えた他にも、既婚を条件としている地域もあるなど、就業にあたって条件を課すところもあるそうだ。またお米の生産は技術や体力的な面でも大変であり、都会などから農業に携わったことのない人が始めるには難しいところがあるという話もして頂いた。河原さんからのお話を聞いたところ、米の農業を新規に始めるのは大変であるという印象を受けた。

また同じく大町さくらんぼ園で農家をされていたという武田たかよさんにもお話をさせて頂いた。大町さくらんぼ園の農家のもとではかつて農業体験を行っており、約1週間程度さくらんぼの栽培の仕事のお手伝いという形で体験でき、共同作業と共同生活によ

り家族のような関係を築け、農家の雰囲気を感じとることができたという。しかし後に農家になった人がいるという実績はないそうだ。天童市は盆地に位置しているため、夏は暑くて冬は寒く、温度差が大きいという理由で気候面においては果実栽培に優れているという。農業は、樹木などに対する愛情が欠かせず、ただ体を使うだけでなく流通のことを考えるなど頭も使うという。また大量生産よりも手の込んだ、より良質なものをつくるのが望ましいということで、大町さくらんぼ園では環境にやさしい有機質肥料を使用し、農薬の使用をできる限り控えて安心安全な果実をつくることを心掛けているそうだ。消費者の直接の反応が嬉しく、それが励みになるという。

王将果樹園果樹園の矢萩さんにもお話を聞かせて頂いた。果樹園では夏休みを利用して山形市商工会議所と連携して高校生に農業を体験してもらおうというプログラムの実施や、学生を対象としたインターン事業など農業体験を積極的に行っている。農業をやってみたいという人は多くいるが、イメージとのギャップある場合が多いという。農業の現場は想像以上に辛く、休みは不定期で労働時間も定められず、生活は果実優先のものになる。栽培は気候や天候に左右され、これにより収穫量が毎年変動することもあるれば毎年販売価格にも変動があり、収入が安定しないことが多く農業が好きでないと務まらないという。イメージとのギャップを解消するためにも実際に農業を体験する必要性があり、インターンなどを通してしっかりとイメージを持ってほしいという。学生インターンは県内が多くあまり遠くからは来ないので、温泉施設やホテルなどを利用した滞在型の体験・インターンを実施し、遠方からの学生にも参加してほしいという。跡継ぎについて尋ねたところ、果実は米に比べると比較的作りやすいという点もあつてか、若い後継者は意外と多く、後継者不足という問題には直面していないということが分かった。果実を栽培できる環境を整えるためには、数年間の投資を要することもあり、新規に就業するにあたって困難な面がある。そのため新規就業者は、国から手当てや適度な環境が残る跡地の活用などをするのが理想だという。矢萩さんは、天童市の種類豊富な果実は観光の切り口にもなるという。

インタビューにより、農業の現時点での状況や体験希望者に対してどのような取り組みが行われているかを把握することができた。ここで提案するのは、実際に生活・移住するにあたって農業やその体験などができる環境を整えることである。第一に、多くの農業体験希望者に実際の農業を知ってもらうためにも、インターンや農業体験の取り組

みをより拡大するべきだと考える。今回インタビューさせていただいたお二方はこれらを実施していて、実際に就業したケースこそ見られなかったものの、自身のイメージと実際の農業とのギャップを認識するためにもこのような取り組みは必要であり、さらに力を入れるべきだと考える。他にも果実の農業団体を設置するなどして、農家の方と連携して体験希望者を受け入れたり、用具貸与、農業技術習得の実施、研修相談窓口などを設けたりするとよいと考える。

新規就業者のために行政が補助金などを出すだけでなく、農業跡地を買い取って希望者に安く提供するなど、更地ではなく跡地など農業を始めやすい環境を継承していくような支援策を打ち出していくことが必要である。加えて、周辺地域の方にも協力して頂き、新規就業者を温かく受け入れ、農業を新規に始めるにあたって、周囲の方と連携し協力しあえるような環境をつくる必要があると考える。

また、今回の移住体験ツアーでは農業の一部を体験するだけでなく、始めの方の作業から最後の方の作業、簡単な作業から難しい作業、楽な作業から大変な作業まで、様々な仕事を体験するべきだと考える。そのためには1回の参加だけでなく、複数回に渡ってプログラムに参加し、多様な時期に多様な仕事をして農業の全体像を掴めるような体験にすべきだと考える。そのプラン例として、学生・社会人は土日限定・夏休みなどの長期休暇の利用、シルバー層は通年の長期滞在などをあげる。

天童市の農業の就業人口が増えることで天童市の名を広げるとともに、過疎化や人口減少が進んでいる中で地域の活性化にもつながると考える。現在では日本の農業人口の減少が進んでおり、地方創生を掲げている今、その一歩である農業再興の動きにもつながると考える。シルバー層の方々は、定年退職後の移住により、第二の人生として、都会の喧騒などから離れた静かな町で余暇余生を送るといったこともできると考える。

## (2) 居住地の確保

私達は、課題解決の糸口と考える3つの大きな柱の一つ「居住地の確保」として、移住者の生活の場として「空き家」を活用していくことを提案致します。

現在天童市では、空き家が150軒近くあるとされています。その中で空き家を活用していくことで、空き家に住む人にとっても安い価格で借りることができたり(図3-1)、空き家に人の息吹を蘇らせることで、町の活性化に貢献することができるなどのメリッ

トがあります。それに加え、空き家を住人などが自ら施工を行い部屋のリメイクをする“セルフリノベーション”というものを試みてみたり、家が大きいことをメリットとして、住居としてだけでなく、地域住民が集える場作りなど、新しい使い方を考える「使い方コンペ」を行うことで活用の仕方を面白くする。コンペ優勝者は、対象の空き家でコンペ案を実際に形にすることが出来るというおもしろさもあります。持ち主にとっても、何の価値も生む事がなかった場所から、例えば定期的に家賃が収入として入ってきたり、そこが町の新たな拠点になってくれる、すなわち価値が生まれるメリットもあります。そして天童市にとっても、新しい空き家のあり方が生まれたりして、注目度も上げられる可能性が考えられます。

しかし、そのためにはまず、空き家バンク自体の利用促進を行わなければなりません。現在天童市内だけで 150 軒近くの空き家があることが確認されている中で、空き家バンクでは 3 軒の紹介、うち取引しが成立したのはわずか 1 軒のみです。市役所の空き家担当の方にお話を伺ったところ、空き家バンクがうまく機能しない原因として、持ち主の意見としては「仏壇・家財道具等が残っており、整理できない」「盆・正月などに帰郷した際に利用している」「一旦貸してしまうと、退去してもらえなくなる恐れがある」「相続登記が済んでおらず、売却・賃貸等の契約ができない」「既に不動産屋に登録している」「耐震性がない、耐久性が著しい等で人に危害等を及ぼさないか不安」などがあるそうです。しかし、空き家を持つ市民へのアンケート結果によると、「空き家バンクにぜひ登録したい」という方が既に 27 名いるというデータが出ています。

まず、空き家バンクの手続きだけでも、下図にありますように手間を要します。(図 3-1) それに加えて、空き家バンクに登録したい方の問題を解決したり、空き家バンクの普及活動を行うには、何よりもまず人手が必要です。私達は空き家バンクが活用しきれていない点として、現時点で空き家担当者が 1 名しかいないという事も原因の一つと考え、今後空き家バンクの利用推進をしていくのであれば担当者を増やすことも必要であると考えられます。

---

[https://www.city.tendo.yamagata.jp/livinfo/machidukuri/akiyabanku\\_tourokuakiya.html](https://www.city.tendo.yamagata.jp/livinfo/machidukuri/akiyabanku_tourokuakiya.html) 2015 年 10 月 29 日参照

<https://www.city.tendo.yamagata.jp/livinfo/machidukuri/2015-0113-1307.pdf> 2015 年 10 月 25 日参照



空き家バンク ～登録空き家の紹介～

空き家を紹介します (登録件数：2)

○ 登録第 3 号  
天童市小路二丁目



- 賃貸希望
- 希望価格 月額7万5千円
- 敷地面積 約76.6坪
- 昭和44年建築(その後増築有)

▼詳細は下記をクリック▼

- ◆ 住宅の概要 (1,155KB)
- ◆ 間取り図 (45KB)
- ◆ 写真集 (6,619KB)

○ 登録第 1 号  
天童市久野本二丁目



- 売却希望
- 希望価格 750万円(土地含む)
- 敷地面積 約43坪
- 昭和48年建築

▼詳細は下記をクリック▼

- ◆ 住宅の概要 (193KB)
- ◆ 間取り図 (38KB)
- ◆ 写真集 (4,148KB)

図 3-1 空き家の紹介 (天童市公式ホームページ参照)

【天童市空き家バンクの概要図】



※天童市役所は、売買や賃貸の交渉・契約に関して、仲介行為は行いません。次のいずれかの方法で行ってください。  
 < I > 所有者と利用希望者の2者間で直接取り交わす方法  
 < II > 天童市が仲介を斡旋する公益社団法人山形県宅地建物取引業協会天童を通して取り交わす方法(仲介手数料は自己負担) 安心な取引をいただくため、< II >をお勧めします。 ※契約等に関する一切のトラブル等については、当事者間で誠意をもって解決をお願いいたします。

図 3-2 天童市空き家バンクの概要図 (天童市公式ホームページ参照)

### (3) 地域コミュニティへの参加

私たちが地域コミュニティへの参加を必要だという結論に至ったのは、移住者が地域のつながりに溶け込む必要があると考えたからである。都心と地方では、地域の人々とのつながりが違う。移住者は元々都心に住んでいた人を考えているので、その違いに驚くことも多いだろう。おはよう日本の特集「若い世代の“移住”を呼び込め」によると、都会にはない農村独特の習慣に戸惑い、定住を断念した方が多いということが分かっている。その理由は、都会にはプライバシーがあるのに対し、何事にも干渉されるので、そのことに戸惑いを感じるからである。都会の地域交流に慣れている人は違和感に思うだろう。

天童には町内会と隣組がある。隣組とは、江戸時代にできた制度で、町内会と働きはほぼ変わらない。都会ではあまり町内会の中での関わりは少ないのに対し、地方では町内会のかかわりが多い。天童の方の話によると、町内会や隣組でゲートボールや食事などをしながら近所の方々と交流をしているそうだ。またゴミ当番や草取りなどの活動も行っているようなので、そのような人が進んでやらないような仕事もプログラムの中に取り入れることにより、よりその土地に住んだ時の実感することができるだろう。町内会や隣組での活動は楽で楽しいことばかりではないが、その交流の中で人々が責任を持って自分の役割を行い、近所の方と交流することで、お互いの間に信頼関係が生まれる。信頼関係が生まれれば、日々の生活に安心感を得ることができるだろう。このような活動を移住体験プログラム内で体験することができたら、地方でのコミュニケーションの取り方を実感することができるだけでなく、その体験の中で地域の方々と親しくなれば、また天童に戻ってきたい、とさせていただくことができるだろう。

具体的な案としては、町内会のお祭りに参加してもらい、お祭りを楽しんでもらった後、飲み会で地域の方々と交流していただくものだ。また、草取りも地域の方と一緒に取り組んでいただき、さらに地域の方と交流できる場を増やす。

#### 4、終わりに

以上のように、我々は学生派遣プログラムで山形県天童市を訪問し、現地での調査やグループワークを行い、移住体験プログラムを政策提言としてまとめさせていただいた。天童市はすでに医療や教育など住環境面などのサポート体制が優れていたため、今回は移住・定住する上でなくてはならないものとして3本の柱を定め、それをどのように整備・実現するかなどを現調査及びその後の複数回のグループワークでまとめ上げてきた。

都市部に位置する学校に通う私たちにとって、今回のこの体験は非常に貴重なものであったと思える。普段はあまり考えないであろう地方の現状・課題（今回では人口減少）について、外部者の視点から「どのような政策を行えば解決に向かうか」ということを考えることができた。また、諸地域ごとで異なる物事を様々な角度から捉え、どのようにアプローチするか考えることの難しさなども身をもって知ることができた。他にも事前・事後の複数回に渡ったグループワークや意見交換の意義や仕方など多くのことを学ぶことができた。

ここで得られた経験を活かし、地方及び日本の現状について深く考え、今後我々が社会を生きていく中で活かしたらよいと考えている。

最後になるが、貴重な体験となったこの学生派遣プログラムを進行・協力してくださった、社会連携事務室・天童市職員のみなさま、並びに天童市において現地調査に協力して頂いた多くのみなさまにお礼の意を申し上げたいと思う。